
知恵の輪！

ストレイト・クーガー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

知恵の輪！

【Nコード】

N33180

【作者名】

ストリート・クーガー

【あらすじ】

私立陽春学園ミステリ研、そこには個性豊かなメンバーが集い毎日騒がしくすごしている。

この物語はそんなミステリ研の日常をかいた学園コメディ。

第零話：顔見せ的な展開

（顔見せ）

本編とはほぼ関係有りません。

「うおっしゃー！始まっちゃうよ知恵の輪ああ！」

「やかましい！」

「じゃあねえ、さっそくこのあたしが皆の紹介をしちゃうよ！」

「人の話を聞けよ……」

「はい！じゃあまず主人公！荻原康介先輩おぎはろくすけ！」

ドドーン……！

「どうも」

ニコニコ（^ー^）

「なんでも出来ちゃうすごい人であたし達の所属してるミステリ研の会長もしてるの！すごいわあ……カッコいいわあ……ああ、独占したい……」

ハアハアハア……

「お前はいつたい何を言いたいんだ……」

「おつとよだれが…」

じゅるり

「ねえねえ、ちーちゃん私は？」

「あつゴメンゴメン！忘れてた！」

あたしとしたことが失敗失敗（／／／／）

「自分の友達の紹介忘れるなよ…」

むつ杏くんはいちいちうるさいなあ…ちゃんと紹介すればいいんでしょ？すればさ！

「気を取り直して、この子は荻原縁ちゃんおきはら ゆかり、普段からぽけーっとしてて超癒し系なの！あと康介先輩の妹なの！」

ふう、頑張ったあたし！これで満足でしょ！じゃあ次はあたしね！

「あたしは東雲しののめ 知恵ちえ！容姿端麗、頭脳明晰な学園のアイドルう！
！！」

「なに自分だけ誇張表現してんだ！このバカ！」

ビシィ！！

「あいたっ！」

「ほら、ちゃんと俺の紹介もしてくれよ」

よくもたたいてくれたなあ…よし見てろよお（＾　＾ケケケ

「わかったわ！このツツコミ魔は荻原おぎはら 杏君きょう！康介先輩達の従兄弟でムツツリ！よし終わり！！」

よし！すっきりした！！まじでざまあｗｗ）、（

「だっだれがムツツリだ！このバカ女！！」

ドゲシツ！！

「痛っ！！ちよつとお！普通女の子を蹴る！？」

「お前がおかしな事をぬかすからだ！！」

だからって蹴るかこのお…こうなっつたら仕返ししてやる！！

「ここであつたが百年目！くらいなさい！漫画表現を超えた攻撃い
！！」

「甘い！ナイトダイナミック！！」

ドタバタドタバタ

「なんか2人が戦いを始めちゃつたので俺が紹介を引き継ぎます。
最後の一人はそこで寝ている顧問の只野ただの 唯先生ゆいです」

「すぴー…すぴー…」

「今紹介した5人が俺達ミステリ研の主要メンバーです。」

「台詞がとても多く読みにくいとは思いますが、もし気に入っていただけたのならこれ以降も読んでいただけると嬉しいです。」

せーのっ

康介・縁「知恵の輪!をどうぞよろしく!」「」

知恵・杏「だらっしやあああ!?!?!?!?!?!」「」

バキイイイ!!!!

「すぴー……」

この作品は、多少銀魂の影響を受けています。

第巻話：プロローグ的な展開。

ここは私立陽春学園の文化部部室棟、そこに今日この学園に編入してきたばかりの一人の女生徒がいた。

「えーと、たしか先生が2階の端っこだって言ってたからこの辺であつてるよね？」

彼女はキョロキョロと辺りを見渡しながらつぶやく。

すると一番奥の部屋から人の声が聞こえてくる。

「あそこかな？」

ばたばたばた…

「あつやっぱりそつだ」

彼女の見上げた先には一枚のプレートが貼つてあり、わりと綺麗な字でこう書かれていた『ミステリ研』と。

その扉の前に彼女は胸の前で拳をつくり『よしっ』と一言呟く。今もなお部屋の中からは賑やかな声が聞こえてくる。

彼女ははやる気持ちをおさえ、そつとドアを押し開けた。

ガチャッ

「失礼しまー…」

「くらえ！バカ女あああ！！」

「きかないよーだ！ぺっぽこ杏くんのぺっぽこ攻撃なんて屁でもないよ！あたしうまい事言った！」

「んだとコラアア！」

「ちーちゃんもきーくんもがんばれ〜」

「すぴー…すぴー…」

ぎゃーすぎゃーす

「……………え？」

ポカーン（ - ; ）

「…あれ、どうしたの？あっ！ひょっとして入部希望の子かな？」

ニコニコ

背後で激しい戦闘が繰り広げられる中、彼は全く気にする様子もなく笑顔で話しかけてくる。

「あ…えと…な、なんでもないです…」

あまりの展開に頭がついていかずしどろもどろになってしまったが彼は気にした風もなくニコニコと笑いながら言ってくれた。

「そっか、でも興味がわいたらいつでも来てね？俺達ミステリ研はいつでも歓迎するからさ」

「は、はい…そっそれじゃあ、失礼しました…」

パタン…

うん、新しい学校だからって無理することないよね…私は私らしくしよう…

バキィィ！！

肩をおとしながら来た道をトボトボと帰る彼女の背後でそんな鈍い音と『よっしゃああ！』という女の子の雄叫びが聞こえた気がした…

この物語は陽春学園『ミステリ研』の個性的なメンバーたちの日常を書いた物語。

第貳話：『 又さま。』な展開。

夕日が眩しい窓際に一人の少女がグラスを片手にたたずんでいる。

『私の名前は知恵…私の一日の終わりは一杯のウォッカで締め括られる…』

そうして私はグラスの中の液体を一口、口に含む…

『美しいあの夕焼けに…乾杯っ』

「ちーちゃんなにしてるの？」

彼女…東雲知恵が声の聞こえた方を見るとそこには康介、縁、杏の部活のメンバー三人（プラス背負われた唯）がいた。

「あつ縁ちゃん！どうどう？さっきの私？まさにハードボイル度MAXって感じじゃない？」

杏は背負っていた教師…唯をソファアに寝かせながら得意気にしている知恵に言った。

杏「アホかお前は…つかハードボイル度ってなんだよ」

「うん！かつこよかったよ」

「やっぱり！？だよね！」

杏の言葉が届いていないのか、二人はきやいきやいと笑いあう。

「あ、でもそれ本当にお酒なの？」

縁が知恵の持つているグラスを指差し問う。

「お酒じゃないわよ？ただの麦茶、縁ちゃんも飲む？」

「あっちようだ〜い」

二人は麦茶をのみながらはしゃいでいる。

杏は諦めたように話題を変えた。

「はぁ…もういいや、ところで康介、今日の活動はどうする？」

「ん、俺は…」

「ハイッ！ハイハイ！」

康介の発言を遮り知恵が勢いよく拳手をする。

「…誰か意見は？」

「なぜ無視するかー！？あたしの意見も聞いてよー！！」

知恵は怒りをあらわにするが、杏はため息一つ。

「お前は口クな発言をしないからな、聞く価値がない」

「なっなにをー！？そういう事はまず意見を聞いてからいってよね

「！」

知恵は『もしかしたら素晴らしい内容かもしれないじゃんっ!』と
言うが、杏はまたため息を一つついた後、

「なら一応聞いてやるから言ってみるよ」

「よし、聞いて驚け!題して『東雲探検隊が行く!うーま、チュ
パカブラ探し』!」

……………。

縁はよくわかってないようで思案顔、康介はニコニコしていて、唯
は爆睡中。杏はジト目で知恵を睨むと、またもため息をついた。

「はあ……」

「えっ?ダメ?」

「当たり前だ!というか『うーま』じゃなくて『ユーマ』だ」

「えー……」

納得がいかないのか知恵は康介に助けを求めた。

「康介先輩はどう思いますか?」

すると康介はまんざらでもなさそうに

「俺は別に構わないよ?案外面白そうだし」

「いくら康介が許可してもコレはダメだ！第一こんな時間に散策に出掛けたら帰りが暗くなるし、もし道に迷ったらどうするつもりだ？」

「うっ」

ギクッ

「あはは、残念だけど杏の言っている事は正しいし仕方ないね」

知恵は『自信あったのになあ…』と呟いたあと、何事もなかったかのようにつぎの提案をした。

「じゃあチュパカラ探しは保留ってことにしておいて今日はのんびりするって方針で！」

それを聞き杏は疲れたようにソファーに座り込んだ。

「結局今日もそれが…康介、今日の活動記録よろしく…俺は寝る」

「ああ、わかったよ」

「ねえねえ、ちーちゃん一緒にゲームしようよ」

「別にいいよ？なににする？」

「じゃあじゃあ、この伝説のガンシュー『デ』さまを…」

「『デ』ス ま『！？』」

「『うわあ！？唯ちゃんがおきた！』」

ぎゃーきゃー

康介はそんな三人の姿を眺めながらいつもと同じ内容を活動日誌に書き込む。

『今日も平和に楽しく活動』と

杏は悔っていた、東雲知恵という人間の行動力と諦めの悪さ…そしてこの部活のメンバーの流されやすさを…

次回に続くはず

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3318o/>

知恵の輪！

2010年10月19日19時04分発行